
:☆:.:☆:._:☆:._:☆:._:☆:._:☆:._:☆:._:☆:._:☆:._:☆:_
:☆:.:☆:._ _.:☆:._.:☆:._.
:☆:.:☆:._ 自然法算命学 鑑定書報告書 _.:☆:._.:☆:._.
:☆:.:☆:._ _.:☆:._.:☆:._.
:☆:.:☆:._:☆:._:☆:._:☆:._:☆:._:☆:._:☆:._:☆:._:☆:_

〇〇〇〇 様

鑑定書製作者：自然法算命学 観山素至命

【申込人名】 〇〇〇〇 様

***** 命式 *****

生年月日 〇〇〇〇年 〇〇月 〇〇日 (土) 性別：女性

●節入りの深さで取り、冬至を新年の区切りにした場合

日 月 年

24 43 59

〇 〇 〇

〇 〇 〇

天中殺：午未

宿命 (陽占)

| 牽牛星 | 天印星

—+—+—

牽牛星 | 貫索星 | 調舒星

—+—+—

天報星 | 石門星 | 天祿星

■丁火の守護神■

丁火は灯火（ともしび）、蠟燭（ろうそく）の火を象徴とします。よって、丁火にとってもっとも必要な存在は蠟燭の火源であるロウであります。十干に置き換えると甲木であります。自然界では丁火は松明（たいまつ）の火です。松明が燃えつづけるには、薪を樹木のあるところから伐採してくる必要があります。その役目をなすのが、斧である庚金であります。

丁火は、甲木と庚金がバランスよくあることが、宿命を生かせる道であります。

丁火にとってもっともいやな存在が雨であります。よほど強い松明でないと、雨で消えるか、水が水蒸気爆発してしまいます。その場合、戊土、己土で癸水を抑える必要があります。

丁火は焚き火とするか星とするかの違いです。身強は焚き火として役目を発揮します。身弱は星として役目を発揮します。身弱が世の中で力強く生きようとするとな滅火となり運命の寿命が短くなります。

基本「丁火」は木性によって火性が燃え続けることができます。持続力が生まれます。木性の無い丁火は運気の持続力に限界が生まれます。

春は木性と金性です。木性の火源と金性で木性を刈り取ることで、火源を強めます。

夏は燃えすぎると火事になりますので、水性と金性です。そのうえで火源の木性を求めます。

秋から冬にかけては火源の木性と、木性を刈り取る金性です。弱すぎる丁火には火性も必要です。

丁火：守護神　：　守護神は左から第一、第二、第三守護神の順番です。

午月生まれ　：　守護神は　壬水　庚金　甲木

壬　　調候（癒し）の第一守護神　父、配偶者、名誉、資格

壬水は大河に悠々と流れる水や湖水とみます。
水は力強く流れていれば清いのです。

陽壬　海湖一交通を意味する

方位は北方、色は黒色、夜をイメージさせる色。

自然界の事象に置き換えて大河、大海、海原、人工的な水

陽の水性で海、湖を表します。水は流れますので「流動」という言葉で表します。流動は海流からきています。すべて一定のも

のがなく常に何か動いています。対象が流動するのです。
壬水は流動する気の象徴です。

辛 調候の第二守護神 社交における愛情、お金

辛金は加工された優しい貴金属とみます。
指輪とか貴金属のように宝石の象徴です。

陰辛 宝石—宝石など宝物すべてを含む
方位は西方、色は白色、または淡白（薄い白色）
自然界の事象に置き換えて小石、砂利、貴石、軟金
辛金は金属としては柔らかいのですが、鋭い宝石という質があり、「從鋭」という言葉で表します。宝石の気は特別意識、美意識という気をもたらします。積極的な気です。
辛金は無形の精神世界を自然淘汰する気の象徴です。

甲 調候の第三守護神 母、母性愛

甲木は山や大地に聳え立つ大木（樹木）とみます。
大きく育った大木は庚金（斧）を用いて伐採し、役に立つ棟梁の材と成すことです。

陽甲 樹木—建築など食料以外の用材
方位は東方、色は青色、春の樹木が持つ青々とした青緑色
（古代の中国では青色は植物が持つ色でした。）
自然界の事象に置き換えて樹木、巨木、大木。
樹木は真っ直ぐ伸びるので動きを「直」といいます。真っ直ぐな気です。気は先へ先へと進みます。
甲木は命の象徴を表します。

■後天運守護神■

丁火：守護神　：　守護神は左から第一、第二、第三守護神の順番です。
午月生まれ　：　守護神は　壬水　庚金　甲木

後天運　壬、癸、亥、子の年は、世の中の注目を集める運氣です。

後天運　甲、乙、寅、卯の年は、目上の引き立てを得て運気の動きがスムーズです。

後天運　庚、辛、申、酉の年は、バランスをとりながら宿命が稼動する運氣です。

■忌神■

丁火：忌神
午月生まれ　：　忌神は　火性（丙火　丁火）　土性（戊土　己土）

後天運　丙、丁、巳、午の年は、運気の動きが滞りがちです。

後天運　戊、己、丑、辰、未、戌の年は、運気の動きが滞りがちです。

■極■　極は、運勢のポイントをにぎっており、扇の要に相当します。

午　生月中殺：家系の援助を離れて宿命が稼働します。

■天中殺■

■午未天中殺■ 午未(6月、7月) 午年、未年

- ・ 午未天中殺 南方中殺世界といい、細木数子女史の六星占星術では、火星人と説かれているようです。

- ・ 本質：義。
- ・ 役目：物事の推進力、前進力。
- ・ 場所：運命を共にするものとの共同の場。
- ・ 方法：有形。

現実的世界で前進することを役目として与えられており、補佐役、二人三脚の同志を得ることが大切である。新しい世界を作り、理想を構築するために常に前進し、その中で自己の役目が消化されていく。自己の心の中から発した現実的理想郷を作り出すことが役目として与えられている。家系の流れの末代に生まれやすく、家系の最終段階として何らかの結果を作り出していくこととなる。未来より自分の代で何らかの形成をなそうとする。そのために、子供縁が薄く、跡取りは自分の仕事の継承者となりにくい。目上上司の引き立て強く、初年運、中年運の人が多。子孫、後輩、子供の生き方に対しての心の広さが問われる世界であります。

◆◆◆ 【性格診断】 ◆◆◆

目的に対する執念がものすごいです。しかし、その手段が粗雑になりがちです。負ければ退き、力を蓄えると攻撃に転じ、周りから見ると目先のことに振り回されているように見られたりします。

目的に対する執念は、老年に至ると相当に奥深い人間性を形作ることとなります。

組織の中で自分本位の行動をとろうとしがちです。時に独裁者的要素を現します。組織の中で下のものに対してワンマンになりがちです。時代の変化をつかみ、時間の活用がうまいところがあります。

独立自営の世界、自主自営の精神です。

集団行動が嫌いです。組織に入ると体制に反発します。人生を単独で生きようとします。マイペースです。

他人の恩恵を受けることが嫌いです。他人に恩を売ることも嫌いです。

宿命に竜高星、または玉堂星がない限りにおいて、組織の中では懐疑的で事なかれ主義的な性格です。内面においては防衛本能が強く自己保身を優先しがちになります。

集団における役目や名誉と自己保身の狭間で葛藤を所有しています。組織の中で、懐疑的で事なかれ主義的な一面があります。

内面においては防衛本能が強く自己保身を優先しがちになります。

集団における役目や名誉と自己保身の狭間で葛藤を所有しています。

プライドと反発心を持ち合わせるため、内面には気品を保ちながら外面に粗暴さを出す事があります。この粗暴さは、動乱期には新しい時代を切り開く強い力となりますが、平和時には無駄な力となり、時には破壊力となる事もあります。

見た目は品性がなく、粗野な行動をとりがちです。しかし、その内面に気品とプライドをそなえています。

人を傷つける言葉等を発しやすい性格です。

目的のために財力の蓄えをなそうとしますが、使うときには一期に

使う傾向にあります。

新しい格式を形成していこうとする気質があります。

気力、体力が、限界に近づくとイライラする。

内面においては相当にプライドの高いところがあります。それに反して現実の行動においては、何も考えずに行動してしまうところがあります。

宿命に知恵の星、竜高星、または玉堂星がないと計画性のない行動となりがちです。

宿命に貫索星または、石門星がないと自立心が薄い性情となり、見た目においては、知性的性情を現そうとします。

■貫索星という自立の星があります■

頑固です。自分のペースを守ります。ライバルが現れやすい星です。自分を優先する人です。自分の心を守ろうとします。小さい集団の要になろうとします。目上の兄弟姉妹との縁が深い星です。

・ 稼働法

貫索星は同姓の兄弟・姉妹がいると稼働が早くなります。

人と対抗する意識があるので、自分なりの考え方、生き方、思想をしっかりと持てるかどうかで、運勢の稼働が大きく違ってきます。まず、精神的に自立する意識を持って社会に向かうとき、この星が稼働を始めます。人と違うもの、人に無いものを自分なりに身につけようとする意識が、貫索星が稼働するポイントとなります。人になんかを持とうとすること、そのことによって「自己確立」をすることが大切です。唯一、親友のアドバイスは素直に聞く事が大切です。良き親友が得られるかどうか大切です。

守ること、自分の魂、人の魂が平穏でいられるようにするには、自分がどうあるべきかを、自分に問う意識に目覚めたとき、この星が最も輝き始めます。

自立する意識を持つことです。

そのためには人になんかを持とうとすることです。

そのことによって「自己確立」をすることが大切です。

誰かを守りたい。誰かのために守りたい。という意識が持てる時、貫索星が稼働を始めます。

吉作用 自分の中の貫索星が稼働しているかを確認する方法。

外面 集団の要、組織づくり、

内面 行動力、自立心、独立心。内面は重々しく、ゆったり鈍重である。

凶作用 自分の中の貫索星がくすぶっている時の現象

外面 孤独、一人っ子、独立独歩、兄弟縁が薄い。

内面 気軽で軽快、活発になる。

■石門星という協調性の星があります■

友達を作ろうとします。組織を形成しようとしてします。友人や組織を大切にします。組織を守ろうとします。物事の動きや組織の動きを見ようとしてします。時代を見ようとしてします。判断力が優れるようになります。組織や集団との縁が深いです。思想やイデオロギーを持って集団を統一させようとする意識があります。目下の兄弟姉妹との縁が深い星です。

・ 稼働法

石門星は和合、協調の星です。

異性の兄弟がいるとこの星が稼働を始めます。友人、友達だけで運勢の動きが大きく違ってきます。組織や人間関係を客観的に把握しようとする星です。世の中の現実、自分が関わる組織や人間関係で、和合やまとまりを形成する為に行動を起こすとき、この星が輝き始めます。組織の平和とまとまりを形成する為、そのまとまりの理論武装（イデオロギー、思想）を持って行動するとき、石門星が最も輝きます。平和な組織を形成する為の思想を作り上げる事が、この星を輝かせるポイントとなります。

人として対等、平等に接することができるかどうか、そして、清濁併（あわ）せのむがごとく、自分と考えが異なる人も受け入れる器の大きさの度合いに応じて、運勢の稼働が大きくなります。

組織やグループ活動の中で、平行感覚、平等意識、達観できる感性を意識できる時、石門星が稼働を始めます。

吉作用 自分の中の石門星が稼働しているかを確認する方法。

外面 和合性、異性の友人、兄弟、社交性、説得力

内面 感が鋭く、物事にたいしはつきりする。頭の回転が速い。

凶作用 自分の中の石門星がくすぶっている時の現象

外面 戦い、闘争、アウトロー

内面 物事が投げやり、頭の回転が鈍く機敏性がない。ぼんやりしたり、うっかりしたりする。

■調舒星という直感にすぐれた星があります■

空想力があり、一人でものを考えたりすることが得意で、好きです。心理的な葛藤も大きく、神経質です。反発心を内に秘め、本心を出そうとしない星です。潔癖主義です。完璧主義です。自分に厳しいです。他人に厳しいです。孤独で寂しがり野です。あまのじゃくです。反発反抗心があります。直感に優れています。人の心を見抜きます。記憶力が早いです。子供や部下との縁が深く、思い入れをしてしまいます。

・ 稼働法

調舒星は不平不満、神経質、間接的伝達（芸術や音楽）の星。

悩みの多い星で、何事においても不満が高まりやすい星です。この星を稼働させるには、一人の時間を持つことであります。一人で物思いにふける時間を持つことで、調舒星が稼働を始めます。

調舒星は、潔癖主義、完璧主義です。

目に入ってくる情報の中で、直感的にその本質を見ぬくところがあります。学生の頃は暗記力がありますが、記憶を持続することは苦手です。人と会話すると、その人の心の本質を鋭く見ぬいてしまいます。

一人、物事の本質を追及しようとする意識に目覚めるとき、調舒星が最も輝くようになります。

調舒星の稼働のポイントは、一人の時間をつくることです。一人になって自分を活かせる時間と方法をつくることです。

仕事で成功するには、一人でできる仕事を始めることです。

吉作用 自分の中の調舒星が稼働しているかを確認する方法。

外面 経済力、表現力、時代を見抜く目を持ち新しい時代を切り開く。

内面 内面は用心深く慎重である。社交性、明るい。

凶作用 自分の中の調舒星がくすぶっている時の現象

外面 感受性強く孤独である。多弁で口うるさくなる。

内面 自分だけの世界にはいる。反発、反抗、執念深い。

■牽牛星という名誉の星があります■

まじめで名誉心が強く、常識を備え、組織の中で力を発揮します。目的達成には粘り強く、特に女性は家庭的となります。

プライドが高いです。名誉を求めようとします。きれいな異性を好きになります。格調や気品を重視します。対面を重んじ、他人の批判を極端に嫌います。自己愛が強いところがあります。名誉を守るために組織をまとめようとします。

長男の役目の星であり、家系を伝統を守る役目があります。

女性にとっては夫との縁が深く、夫の仕事運の星です。

・ 稼働法

牽牛星は、名誉、名声。プライドの星です。

大きな目標を持ってください。その為の手段をしっかりと考えてください。段取りを組んで、長期的計画で目的に向かう意識がポイントです。

牽牛星の稼働法のポイントは、役目を意識することです。その為の早い手段は、資格持つことです。何らかの資格、役職そこから来る使命感、目的を持つとき、この星が稼働を始めます。そして、組織の品格、格式を上昇させる意識が最大の稼働法となります。

プライドが高い星ですので、若い頃に世の中の常識、自制心をどこまで植え付けられたかが、運勢において幸運が長続きするかどうかのポイントとなります。

大義名分で動き、世の中の道理を知った上で役目を与えられたり、社会に対する大きな役目に目覚めるほど運勢が稼働します。

吉作用 自分の中の牽牛星が稼働しているかを確認する方法。

外面 組織、集団のまとめ、律儀、文官

内面 内面はマイペースでのんびりしている。。

凶作用 自分の中の牽牛星がくすぶっている時の現象

外面 独立自営の仕事、闘争心、相手がつぶれるまで攻撃する。

内面 内面は世話好きで他人に合わせようとする。

★肩に現れる星★

肩に現れた星は青年に達する以前のものの考え方になります。主に子供の頃に表れる性格や希望を現わします。しかし、大人になれば消えてしまうのではなく、老年に達しても性格の一部に持ち合わせています。

天印星・・・若年期に大人や友達に愛され、味方多い育ち方をします。万人に好かれます。福分多い初年期です。

天印星は、陰の極みから陽の気が少しずつ進んでいるが、現実の有形のみが陽で、無形の精神世界はいまだ陰のままであることを表している世界であります。

天印星の本質を「有中の無」とし、最大の無抵抗こそ最大の抵抗であるとします。それは、最大の弱者であり、自己の本質を表すというよりも、回りの人間と与えられた環境のなすがままを受け入れることができる人であります。

天印星は諸々の原因をつくる気を所有し、人の目に触れないところで、諸々の争い、諸々の喜びのなかで、その大きな原因をつくる星であります。そこには回りのものが意識することなく迎え入れると同時に、意識しないままに引きつけられていく魅力を所有しています。

天印星は「有中の無」を「無力の魅力」として気が働き、無であるが故に諸々の現象の原因を作り出すのであります。諸々の原因は無から有へ転じようとする行程で起きるものであります。

占的表現をすると、「人に好かれる人」「幼児のような純粋な心を持つ人」、さらに「物事の原因を生み出す人」となります。

物事が始まる時、かわいらしい性格が、人に出発の後押しを無意識に応援することに役目があります。

心の世界を一言で表現すると甘受する心であります。

環境に受け入れられる特質が、養子、養女的運命の気質を所有しています。

甘受する心。

陽転すると星の動きが現実の現象として現れ、無抵抗の強さを持ち、人にすかれる人となります。

陰転するとエネルギーが内向して精神面の現象として現れ、うちに自我の心を持ち、用心深く人を選ぶ性格となります。

★左足に現れる星★

ここは主に青年期から壮年期にかけて発揮されるもので、人生の目的や役目意識はここから生まれます。正確には20代から40代までの間です。また職業の中で現れる職業意識や社会観が生まれてくるところです。

天禄星・・・人生を堅実・着実に渡ろうとします。

人生の価値観の転換が弱い星です。よって、現実にも強く壮年期中年期を順当に進もうとします。そして、大きく発展させようとする意識があります。

平和思考、安定思考で、平和な組織の中で自分を活かせる道があります。

天禄星は、有形無形ともに陽の極に達する直前の状態にしていることを表している星であります。人の人生において壮年期のエネルギーを発揮する星です。その気は、身を常に見方の陣営において、家族、身内を守るためにバランスある安定をとろうとする気が働きます。物事に対し沈着、冷静、静かな動きです。その背景には現実の安定を望み、的確な洞察力と観察力を稼働させ、人生に対する速度は着実なマイペースです。何事においても用心深く慎重です。

現実的物事の世界では、相対関係の世界のバランスをとることに優れています。もし、行動の中でバランスを欠くことがあれば、そのときに人生全体のバランスも崩れる兆しとなります。

心の世界を一言で表現すると安定を望む心であります。

平和な時代、安定した組織に所属し、知識と経験の裏付けを積み重ねることによって、着実な人生行程を進む星です。すなわち、積み重ねられた経験による裏付けが、運気稼働の重要なポイントとなります。

細かく積み重ねる質は、失敗が許されない分野で才能を発揮し、学問の世界では研究者に向きます。記憶力を必要とする薬学の世界に向いているといわれています。

組織の安定と自分の安定を同時進行させる役目があります。

安定を望む心。

陽転すると星の動きが現実の現象として現れ、堅実、実直で、積み重ねの人生を歩もうとし、物事の現実に対する批判力、分析力が深まります。

陰転するとエネルギーが内向して精神面に現れ、人生に焦りを感じ、心は多情で不安定となり、人生を広く浅く生きようとし、急いで渡ろうとするようになります。

★右足に現れる星★

ここは50代以降の晩年期になって発揮されますが、人生の究極においてどのような人間性と悟りを持つかが分かる場所です。ある意味において、生きぬいてきた社会に対する価値を見つけだすところでもあるわけです。この星が強いと扱い難い年寄りとなり、弱い星であれば温厚な老人となるわけです。

天報星・・・靈感の強い星です。晩年期に精神的世界に関心を持ち、精神性の向上を目指そうとする晩年期です。

天報星は、陰の極みにおいて陽の気が始まる、陰陽が入れ替わることを表している星であります。

天報星の世界は、胎児の星であり、出発点であると同時に今までの過去に一つの区切りがつくということを表し、人生に置いて出発と終結の二つの役割を演じていく世界であります。

相反する二点間の中間に立つ星であります。家庭にあれば肉親と他人の中間に位置した考え方をもったり、会社の中に身を置けば、自社と他社との中間的思考が生まれてくる人であります。

一つの時代の変革期に身を置き、傑出した人材と成りうる代わりに、平和な安泰の中にあって動乱、波乱の糸口をつくる人材となりうる可能性を持つ人であります。

天報星の世界は精神の向上とともに一極の二面性を発揮し、精神の低下は多極多面性を作り出す人となります。要するに、精神的試練を相当に積み重ねなければ単に迷いの人生となり、生涯を通じて定まるものがない、気のコロコロ変わる人となるのであります。

天報星は混迷の中にあって光明を見つけ出す星です。

物事が始まる前の兆しにおいて思考、想念、アイデアが浮かぶ星です。

心の世界を一言で表現すると不規則な心であります。

靈感が強い星であります。精神的価値観をしっかり築き上げることが、運命の波乱性を防ぐ上で大切であります。

不規則な心。振り回される心。

陽転すると星の動きが現実の現象として現れ、千変万化、多芸多才お天気やさんとなります。

陰転するとエネルギーが内向して精神面の現象として現れ、自我が強く、強引な性格、一芸に通じる精神性となります。